

Akiha

# 秋葉区

P167-P192

新潟市民  
文化遺産  
ガイドブック

よしだけじゅうたく

## 吉田家住宅【主屋・座敷棟・土蔵】

秋葉区大鹿624



吉田家は大鹿村（現在の新潟市秋葉区）の庄屋で、大日本地名辞書を編纂した歴史地理学者で早稲田大学教授の吉田東伍博士の養子先です。

また、琵琶湖周航の歌・原曲「ひつじぐさ」の作者・吉田千秋（東伍の二男）の生まれた家で国登録有形文化財に指定されています。

主屋の部分は明治16年（1883）東伍を養子に迎えるために新築したものと伝えられています。木造平屋一部2階建で俗にアズマダチ風民家といわれるもので切妻屋根を架けて平屋側に玄関を設けているのが特徴です。



あきはじんじゃ

## 秋葉神社

秋葉区秋葉3-8-19

秋葉神社は平成25年(2013)創建250年を迎えましたが明治3年(1872)に現在の本殿・拝殿が再建されています。創建以来、桂家の守り神として、かつては近郷のみならず津川・三条・新潟・北蒲原方面まで及ぶ多くの参拝者がありました。昭和39年(1964)秋葉町内に移譲され、以来秋葉3町内全住民を氏子として総代会により運営されています。

御祭神は大己貴神(おおなむちのかみ)で大物主命並びに菅原道真公(天神さま)と共に祀っています。春季大祭・半年参り・秋季大祭・二年参りの祭礼、更には秋葉町内の新入学児童のための入学祭が毎年催されています。

春季大祭では恵比寿・大黒の舞等神楽舞が奉納されます。

秋葉1・2・3町内はそれぞれ独立した町内会活動を実施していますが、運動会・夏祭・自主防災会等の催し物、そして秋葉神社の祭事は3町内合同で行っています。

秋葉神社境内は秋葉公園の一翼を担って四季を通じた行楽の地として市民に親しまれています。

<開催時期>

春季大祭:4月23日～25日

半年参り:6月30日

秋季大祭:9月24日・25日

二年参り:12月31日・1月1日

入学祭:3月下旬の日曜日



推薦団体

秋葉1丁目町内会・秋葉2丁目町内会・秋葉3丁目町内会

ぶんりゅうきねんかん

## 分流記念公園

秋葉区草水町3丁目



秋葉区

分流記念公園は能代川分流工事の完成を記念して造られました。公園の中には沢田半右衛門が創始した一之堰跡、小間堰跡、君健男元新潟県知事が揮毫した改修記念碑、小間堰の完成を記念して植えた桜の木などが見られ、市民の憩いの場となっています。

分流記念公園は、旧新津市民の悲願であった「能代川の治水」が実現したことを伝える貴重な文化遺産です。



いちのせき・にのせき

## 一之堰・二之堰

一之堰(秋葉区草水町3丁目)、二之堰(秋葉区草水町1丁目)



秋葉区

一之堰は天文2年(1533)澤田半右衛門が創始した用水堰で、旧能代川右岸の耕地を灌漑するために設けられました。最初のころは新津堰または草堰と言われていました。一之堰・二之堰共、昭和42年(1967)阿賀用水の完成によって使命を終えています。旧新津市の開発の歴史を語る上で欠かすことができません。



## 熊沢トンネル

秋葉区草水町3丁目



熊沢トンネルは新津油田の生産量の増加に伴い、草水から熊沢へ通じる運搬路として造られました。明治33年(1900)に開通しました。トンネルの完成により原油や資材の運搬、人の行き来が便利になり、生産体制は飛躍的に向上しました。熊沢から油樽を背負い、熊沢トンネルを通過して能代川まで運ばれた原油は、油舟に積み替えられて日宝町や新潟市の精油所に運ばれました。

新津油田の歴史を伝えます。



しんめいじんじゃ

## 神明神社

秋葉区草水町3丁目



秋葉区

神明社は神明神社の前身で、元和9年(1623)、真柄仁兵衛が石油を発見したのを記念して創立されました。現在草水駐在所がある辺りであったといえます。文久2年(1862)に草水集落の産土神として現在地に移転し神明神社と改称されました。神明神社の南西200mに新津油田の開基坪といわれる「煮坪」があります。草水住民の出油に対する思いを伺い知ることができます。



にえつぼ

## 煮坪

秋葉区草水町3-9551



秋葉区

煮坪は、慶長13年(1608)、新津油田の開祖真柄仁兵衛が発見したと伝えられています。江戸時代には越後七不思議の1つに数えられ、多くの文人墨客が訪れています。煮坪は新津油田の原点であり、我が国の石油史にあっても記念碑的な存在でもあります。



推薦団体 秋葉区草水町町内会

## 草水町2丁目窯跡

秋葉区草水町2丁目



秋葉区

平成5年(1993)、宅地造成工事に伴い新津市教育委員会が北側と南側の斜面を発掘調査しました。その結果、北側の緩斜面から土師器の焼成窯10数基、堀立柱建物跡数棟、竪穴住居跡等が、南東の急斜面から須恵器窯1基、粘土採掘坑等が検出されています。土師器焼成窯や須恵器の灰原からも多量の遺物が出土しています。窯の操業時期は須恵器が8世紀中期～9世紀中期、土師器窯は9世紀後期～10世紀と考えられています。

※写真は、新潟市文化財センター提供



あたござわいせき

## 愛宕澤遺跡

秋葉区草水町2丁目



縄文時代草創期(1万2000~1万1000年前)初頭の遺跡です。



平成10年(1998)と13年に新津市教育委員会が発掘調査を行いました。その結果、標高15m地点の5m四方の範囲から石器12点(神子柴型石斧6点、他は石核・礫器・敲石)がまとまって出土しています。土器は出土しませんでした。発掘調査は限られた部分的な調査であることから、近くにムラがあった可能性も否定できません。

※写真は、新潟市文化財センター提供



せきゆざいくつこうふぞう

## 石油採掘工夫像

秋葉区小口(旧帝国石油株式会社事務所前)



秋葉区

当地域は、昭和40年代まで石油の採掘が盛んでしたが油量が減り、採算から閉山となりました。往時には、会社のシンボルとしてあり、地域からの従業員も多くなじみの像であり、地域と石油の関わりは長いものです。

近年、その像の由来が分かり、移転存続への機運が高まっています。地域の石油遺産として、又、過去の石油採掘の歴史を語り継ぐ遺産として保存していきます。



推薦団体 小口自治会

こすどほんちょうどおりのまちやとれきしてきまちなみ

# 小須戸本町通りの町屋と歴史的町並み

秋葉区小須戸(小須戸本町通り周辺)

地区内の個々の質の高い町屋とその集合としての町並みは、信濃川舟運での繁栄を伝える小須戸地域の象徴です。



秋葉区



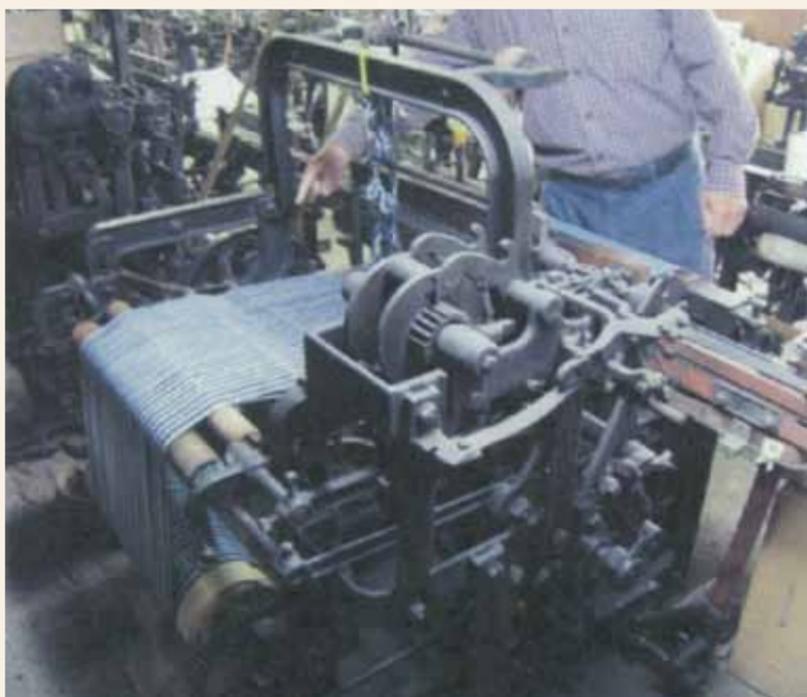
推薦団体 小須戸コミュニティ協議会

# 小須戸縞と関連する産業遺産

秋葉区小須戸604-2

「小須戸縞」に代表される機業は、かつて小須戸の基幹産業であり、地域の発展に大きな影響を与えました。

史料等からは、地域の繁栄時の様子や技術の高さを伺い知れ、貴重なものです。



秋葉区



にいつまつりやたい

## にいつまつり屋台

秋葉区新津本町地区



職人の手仕事による、きらびやかな装飾を施し、宮大工の卓越した技術による造りです。まつり屋台の大きさと数は市内において他に類を見ません。



&lt;開催時期&gt;

宵宮:8月19日

宮上り:8月20日



推薦団体 新津中央コミュニティ協議会

さんきょいなりじんじゃ

## 山居稻荷神社

秋葉区東島488



秋葉区

明治時代の初期に新津最古の寺、妙蓮寺境内から移設された神社で、春秋2回の祭事を行っています。眺望豊かな山居山散策道の途中にあります。

<開催時期>

春祭:6月中 秋祭:10月中



## 八幡太郎義家ゆかりの東島八幡宮

秋葉区東島228



祭神は第十五代応神天皇(八幡大神:源氏の守護神)。御神像は源義家が「前九年・後三年の役」に出陣の際、かぶとに奉りしもので、後に弟の義綱がこれを受け、子孫に伝えたといわれています。

天保14年(1843)に改築された拝殿内には安政年間の扁額、玉泉作の天上絵があり、東島の歴史、または文化性が象徴されています。

<開催時期>

祭事:6月下旬、8月下旬



やさかじんじゃ

## 八坂神社

秋葉区市之瀬259



100年程前、小阿賀野川で水難した4人の子どもの鎮魂を込め、大正12年(1923)堤外地に「カッパ神様」と呼ぶ小さな祠を建て、お祀りしました。

その後、現在の大きさと2度改築され、平成14年(2002)小阿賀野川河川改修に伴い、堤内の現在地に移築されました。

川の恵みと洪水との闘いを繰り返してきたコメ作りの歴史を次世代に伝えるモニュメントとして市之瀬加瀬通の全戸が共同して建設維持管理しており、市之瀬地区全住民の尊崇の柱となっています。

平成24年(2012)「水と土の芸術祭2012」に参加し、約2,000名の市民が訪れ、今も地区住民手作りのカッパ10体が皆様の訪問を歓迎しています。

＜開催時期＞

カッパ神様 例大祭:7月15日



推薦団体 八坂神社嘉瀬通氏子会

ひつじぐさ  
ひつじぐさ

秋葉区大鹿624



昭和47年(1972)、歌手の加藤登紀子が歌って大ヒットし国民的愛唱歌となった「琵琶湖周航の歌」は大正6年(1917)に当時流行していた「ひつじぐさ」のメロディーに旧制三高の学生(水上部)が自分等の詩をつけて誕生したもので、この「ひつじぐさ」は吉田千秋が18歳の時、英詩「ウォーター・リリーズ」を自ら日本語訳したものであり、さらに20歳の時に自作の曲をつけたものです。音楽専門誌「音楽界」大正4年(1915)8月号に掲載されました。

無形文化遺産

すわじんじゃほうのうかぐらだいこ

# 諏訪神社奉納神楽太鼓

秋葉区小須戸地内



秋葉区

小須戸喧嘩太鼓保存会が、平成2年(1990)に旧小須戸町の町制100周年を記念して創設された際に制作し、地域のまつり等の行事に演奏される曲目です。

推薦団体 小須戸喧嘩太鼓保存会

# 喧嘩祭りねりこみ囃子

秋葉区小須戸地内



小須戸喧嘩太鼓保存会が、平成2年(1990)に旧小須戸町の町制100周年を記念して創設された際に制作し、地域のまつり等の行事に演奏される曲目です。

こすどじんく

# 小須戸甚句

秋葉区小須戸本町1丁目地内



秋葉区

昭和8年(1933)以前に作られた小須戸甚句は、地域では最も古い盆踊りです。小須戸の歴史・文化・文化的な生活や、地域性が象徴されています。

平成13年(2001)より、小学校の運動会に、樽囃子・唄・踊りと、町民もまじり、楽しく踊っています。

<開催時期> 8月下旬

こすどおんど

## 小須戸音頭

秋葉区小須戸本町1丁目地内



昭和8年(1933)に作られた小須戸音頭は、子ども達が楽しく踊れるようにと作られた盆踊りです。戦後、忘れられていましたが、平成23年(2011)、63年ぶりに町の有志によって復活しました。今では、小学校の運動会や町の盆踊りにも、老も若きも唄い踊り続けています。

<開催時期> 8月下旬

こすどころた

# 小須戸小唄

秋葉区小須戸本町1丁目地内

昭和8年(1933)に作られた小唄は、地域で最も古い踊りで、昔の生活の跡が今も残っています。小須戸の文化的な生活が象徴されています。

お盆やまつりに老いも若きも唄い踊っています。

## 新津松坂

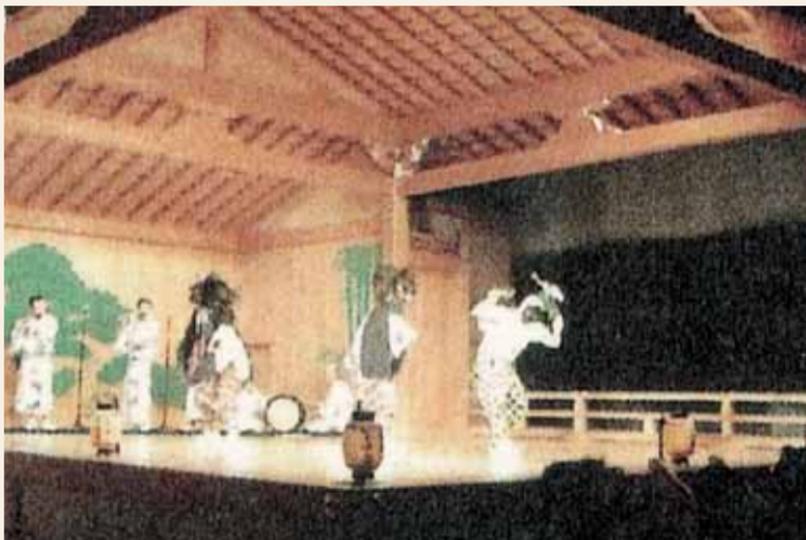
秋葉区新津本町3-20-12



今から四百十数年前の天正年間に新津丹波守勝資という武将がおり、とても武功の誉高く、また風流の道を理解した人物でした。上杉氏の武将として戦陣の間に歌舞音曲をすすめ、士気を奮いたたせることに努めました。たまたま伊勢松阪に優雅な踊りのあることを聞き、数名の男女に習得させ帰国後これに手を加え、領民の間に広くひろめ永く後世に伝えようと「新津松坂」と名づけ、現在まで連綿と唄い踊り継がれてきた盆踊り・盆歌です。夏の風物詩として毎年8月16日になると約1,500人の踊り子が浴衣姿や色々な衣装や編み笠をかぶり、新津地域の本町目抜き通りを流す華麗な流しであり、新潟県及び新潟市内でも一番古い民謡です。

# 小戸下組獅子舞

秋葉区小戸下組



文化10年(1813)に当時の和田村と庚村(現在、新潟市)から、踊りの歌詞秘書を授与されたことに始まる小戸下組獅子舞は、200年を経た現在も当地に伝承されており、地域に愛されている伝統芸能となっています。

# 満願寺獅子舞

秋葉区満願寺



満願寺獅子舞は、江戸時代末期より200年以上守り続けられている伝統芸能です。

会員が減少し存亡の危機にさらされた時期もありましたが、昭和51年(1976)に再発足し、現在に至ります。

現在は、子どもから年配者までが獅子舞を舞い、他の地域のイベントや発表会にも積極的に参加しています。

消えかかる伝統芸能を地域一体となり復活・継承し、他の地域の方と連携しながら後世に伝える活動は地域文化の活性化に大きく寄与しています。

<開催時期> 9月第1土曜日・日曜日

推薦団体 満願寺獅子舞保存会